

志木小学校だより

平成30年度3月号



学校地域教育目標

明るくあいさつのできる子 思いやりのある子
地域を大切にできる子 意欲的に学ぶ子

3/1児童数 722名

好きこそものの上手なれ！



春を待つ桜の木と蕾

校長 坂口 栄二

「いよいよまとめの月！」

今年度もあと1ヶ月を残すのみとなりました。しっかりまとめをして、次の学年に進級・進学してほしいと思います。

ところで「しっかりまとめをする」とはどういうことをすればいいのでしょうか。

まず、1年間を振り返って、「できるようになったことは何か」「まだできていないことは何か」をはっきりさせることです。そして、できるようになったことはさらにできるように、まだできていないことはどうすればできるようになるか考えて実行することです。

「好きこそものの上手なれ」

このことわざの意味は、「どんなことであっても、人は好きなものに対しては熱心に努力するので上達が早い」ということです。逆に考えると、「嫌なものに対しては嫌々取り組んでしまうので上達が遅いか上達しない」ということになります。心にとどめておきたいことわざですね。



ところで、世界や日本でたくさんの若い人たちが活躍しています。テニスの大坂なおみ選手。フィギュアスケートの紀平梨花選手。卓球の平野美宇選手・伊藤美誠選手・張本智和選手、水泳の池江璃花子選手。将棋の藤井聡太選手。囲碁の最年少プロ棋士の仲邑菫選手。等々。その人たちに共通していることは、皆、小さい時からその種目が好きで、楽しく取り組んでいたということです。やはり「好きこそものの上手なれ」だと思います。

池江選手の恩師の言葉

2月12日、衝撃的なニュースがありました。池江選手が白血病と診断されたというニュースでした。世界中の人々が驚くとともに、たくさんの人が池江選手にエールを送りました。十分な治療をし、また素晴らしい泳ぎを見せてくれることを私も願っています。

そんな中、池江選手の小学校時代の恩師の言葉をネットのニュースで目にしました。

恩師は「彼女にとっては、五輪というより水泳そのものがライフスタイルの中心にある。『五輪』と『治療』の2択のような雰囲気があるが、彼女は『水泳に戻る』ことを活力として治療を頑張るような気がする。」と言っていました。



水泳に熱心に取り組んでいた池江選手を近くで見ていた恩師だからこそ、池江選手は水泳を心の底から好きだということが分かっている、池江選手ならそれを精神的な支柱として、つらいであろう治療も頑張ってくれるだろうと信じていることがよく分かりました。

自分の可能性を高めるために！

子供たちは誰でも無限の可能性を秘めています。その可能性を高めたり広めたりするためには様々な経験が必要です。好きなことは熱心に取り組むと思いますが、嫌なことでも自分の可能性を広げるために取り組んでほしいと思います。効果をより上げるためにも、嫌なことでも好きになって取り組んでほしいと思います。

この1年間、できるようになったことへの取り組み方やまだできるようになっていないことへの取り組み方はどうだったのでしょうか。そのことをしっかり考え、よい1年間のまとめをしてほしいと思います。